



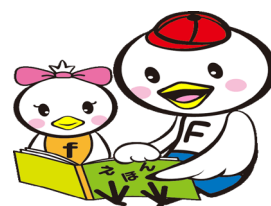
## 福岡市子ども読書活動推進計画(第4次)

福岡市では、これまでも長年に渡り、子どもの読書活動の推進に努めてまいりました。そのような中、これまでの成果と課題を踏まえ、「福岡市子ども読書活動推進計画(第4次)」を策定いたしました。「福岡市子ども読書活動推進計画(第4次)」では、令和5年度からの6年間の展望し、学校・家庭・地域・図書館を中心に、関係機関や団体と連携し、子どもの読書活動を推進してまいります。

そのため、推進計画(4次)では、「広げよう 子ども達の本の世界 共につくろう ことば輝くまち」を掲げ、子どもたちが心豊かに生きていくために、自ら読書を楽しみながら、人との関わりの中で読書の楽しみを広げ、ことば輝く本の世界を共に作ることを目指してまいります。

推進計画の基本目標として

- (1) 自分から読書に親しめる環境づくり
- (2) 自分から読書に親しめる機会づくり
- (3) 子どもの読書活動を支える人材づくり
- (4) 子どもの読書活動を支えるしくみづくり



の4つをあげ、目標を実現するために「家庭・地域」「学校」「図書館」「家庭・地域、学校、図書館の連携」の4つの取り組み分野を設定するとともに、関係する行政セクション等を明確にし、子どもの読書活動の推進するための取り組みに努めていくこととしています。

詳しくは、福岡市教育委員会のホームページにも掲示されていますのでご覧ください。

# 学校図書館となかよしになろう

5月も下旬を迎え入学・進級した子ども達も、新しい環境に少しずつ慣れ始めた頃では、ないでしょうか。それぞれの図書館では、子ども達に図書館オリエンテーションを行い、気持ちも新たに図書館を開館されていることと思います。

オリエンテーションでは、子ども達が気持ちよく、そして、楽しく利用することができるための「図書館利用の方法や約束」を確認すると共に、子ども達が「早く本を借りたい。」「図書館って楽しそう。」と、本との出会いへの期待を高めることができるようにしたいものです。

また、子ども達が図書館を効果的に活用できるようにするために、国語科学習と併せ、子ども達の発達段階に合わせた指導を行うと効果的です。

## <福岡市の各学年の国語科学習内容>

学年	題材名	内 容
1年	「としょかんへいこう」	みんなの本であること
2年	「図書かんたんけん」	本の分け方、本のならべかた
3年	「図書館たんていだん」	本の分類について
4年	「図書館の達人になろう」	地域の図書館の工夫
5年	「図書館を使いこなそう」	日本十進分類法
6年	「地域の施設を活用しよう」	公共図書館、地域の施設の活用

低学年では、学校にはみんなですべて使う図書館があることや使い方。中学年では、本を自分で探したり、資料を使ったりして、自分で調べる楽しさ。高学年では、日本十進分類法についても学び、知りたい情報は学校図書館以外でも知る施設がたくさんあることを知り、子ども自らの学びのはばを広げて欲しいと思います。

学校図書館には、学校司書の先生もいますので、専門的なことを話してもらったり、おすすめの本を紹介してもらったりするのもよいのではないのでしょうか。また、要請していただければ小学校・中学校・特別支援学校へは、福岡市総合図書館「学校図書館支援センター」の司書がゲストティーチャーとして支援することもできます。

1学期始めのこの時期に、図書館についてオリエンテーションや国語科の学習で楽しく学び、子ども達が「図書館の本を早く読みたい。」「〇〇のことを調べてみたい。」と思うことが大切です。そして、その思いが実現できるように、子どもたちが学んだことを自分で確認しながら、自分に必要な本を探せるように図書館環境を整え、今年度の図書館活動をスタートさせましょう。



## 6月のことと人

### 6.1 気象記念日

1875年、東京に日本初の気象台が設定され、1日3回の定時気象観測と地震観測を開始したことから中央気象台（現・気象庁）がこの日を「気象記念日」と制定しました。1884年、この日には、日本で最初の天気予報が出されました。

### 6.12 日記の日

1942年の6月12日は、アンネ・フランクが13歳の誕生日に父から贈られた赤と白のチェック柄の日記帳に、日記を書き始めた日です。

戦争の悲惨さを記すこの「アンネの日記」は、聖書に次ぐベストセラーといわれています。

那須 正幹（1942.6.6～2021.7.22）

広島生まれの児童文学作家。主な作品に1978年発表の「それいけズッコケ三人組」をはじめとする「ズッコケ三人シリーズ」があります。3歳で被爆した那須が書いた「絵で読む広島原爆」が第43回産経児童出版文化賞を受賞しました。

川端 康成（1899.6.14～1972.4.16）

大阪生まれ。東京帝国大学在学中に書いた小説が認められ、後に「文藝時代」を創刊します。新感覚派と呼ばれ、繊細な感性で描いた作品は、高い評価を受けて日本人初のノーベル文学賞を受賞しました。代表作は「伊豆の踊子」「雪国」など。

太宰 治（1909.6.19～1948.6.13）

青森生まれ。第二次世界大戦前から戦後にかけて作品を次々に発表しています。主な作品には、「走れメロス」「津軽」「人間失格」などがあります。また、「斜陽」は当時、人気作品となっています。

サン＝テグジュペリ（1900.6.29～1944.7.31）

フランスの作家で飛行士。代表作の「星の王子さま」は、テグジュペリがリビア砂漠に不時着した経験をもとに書かれたといわれています。この小説は、日本人にとっても親しまれており、箱根には「星の王子さまミュージアム」があります。

5月も半ばを過ぎ、沖縄では「梅雨入り」。福岡の梅雨入り予想は、6月10日ごろとなっています。雨の多くなるこの時期、子ども達が、学校図書館や教室で、本に会い、親しむのに良いチャンスとなるのではないのでしょうか。静かに雨音を聞きながら、ゆっくりと本を読める環境を作ってあげたいものです。

【須藤】

図書館員のひみつの本棚 第 205 回

今月はノーベル文学賞作家の作品です。

『春の心臓』

イエイツ／著 芥川 龍之介／訳 ホノジロ トヲジ／絵 立東舎 2022年 ¥1800(税別)  
933

<お勧め年齢>

乳幼児☆☆☆ 小低学年☆☆☆ 小中学年☆☆☆ 小高学年☆☆☆ 中学生★★★  
高校★★★★ 一般☆☆☆  
(★が多い年齢の子どもにお勧めです。)

<本の紹介>

その生涯の全てを秘術に捧げた老人と彼に仕える17歳の少年。死を間近にし、老人はその秘術によって不死を得ようと、少年に手伝いを頼む。

ノーベル文学賞作家であるイエイツの作品を1914年に芥川龍之介が訳したものに、現代のイラストレーター、ホノジロトヲジがオールカラーのイラストをつけた本書。53ページと短いながらも心に残る物語と、幻想的なイラストが何度でも読み返したくなる。

<子どもに手渡す時のポイント>

文豪の名作に人気イラストレーターが描きおろしイラストをつけた「乙女の本棚シリーズ」の1冊。シリーズの他の作品には、『夢十夜』(夏目漱石)、『山月記』(中島敦)、『女生徒』(太宰治)などがあり、それぞれにゲームキャラクターなどをデザインしている人気イラストレーターが絵をつけています。シリーズに興味が出た生徒には、ぜひ、他の作品も手渡してみてください。



このコーナーで紹介した本はお近くの図書館や書店に置いてあります。ぜひ手にとってみてください。